

# 福島と生きる—再生・復興にいま必要なこと

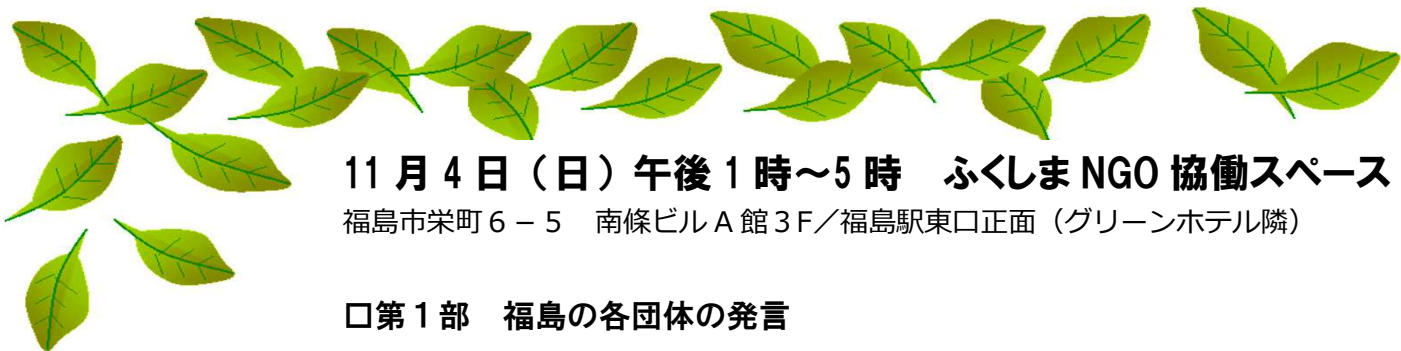
3・11から一年半を経てもなお、  
福島の再生・復興、そして福島第一原発の「事故収束」の展望は何も見えていません  
放射能汚染が広がる中、健康被害の実態さえ把握されていません  
福島から避難した人、福島に残る人々への生活支援や賠償も進んでいません

解散・総選挙に向けた政局にメディアの関心が集中する中で、  
福島の人々が直面するこうした問題が見過ごされ  
解決が先送りにされています

福島の再生・復興、そしてこれからの支援活動に問われていることは何か？  
それぞれの団体の活動の報告と経験の交流を通じて考えます。ぜひ、ご参加ください

## 福島の再生・復興のために

## いま何が問われているか



11月4日（日）午後1時～5時 ふくしま NGO 協働スペース  
福島市栄町6-5 南條ビルA館3F/福島駅東口正面（グリーンホテル隣）

### □第1部 福島の各団体の発言

- 吉野裕之（放射能から子どもを守る福島ネットワーク）  
「気持ちを結ぶ～保養プログラム」
- 黒田節子（原発いらない福島の女たち）  
「これまでの女たちのアクションをふりかえって」
- 橋本俊彦（自然医学放射線防護情報室、9月よりNPO法人ライフケアに改称）  
「健康相談会の現場から～大災害を生き延びる智慧～」
- 菅野瑞穂（あぶくま高原遊雲の里ファーム）

「人とつながる農業再生を目指して～福島の大地を笑顔に！～」

### □第2部 支援NGOの活動紹介と今後に向けた全体討論

シャプラニール、日本国際ボランティアセンター（JVC）  
国際協力NGOセンター（JANIC）、環境NGO FoE Japan〈予定〉

■主催：〈NGOと社会〉の会 ■参加費：500円（予約不要）

■問い合わせ：(株)新評論編集部内  
〈NGOと社会〉の会事務局  
Tel.03-3202-7391/Fax.03-3202-5832

\* 本企画は『福島と生きる—国際  
NGOと市民運動の新たな挑戦』  
(9/24 新評論刊、  
<http://www.shinhyoron.co.jp/>)  
の出版記念イベントです。

